

第179回大阪市外郭団体評価委員会

令和3年7月13日

開会 午後1時30分

【小山法人担当課長】 定刻になりましたので、第179回大阪市外郭団体評価委員会を始めさせていただきます。

私は、本委員会の事務局を務めております総務局行政部法人担当課長の小山でございます。

それでは、議題に入りたいと思いますので、以後の議事進行につきまして、野村委員長をお願いいたします。

野村委員長、どうぞよろしくお願いいたします。

【野村委員長】 本日は、委員全員にご出席いただいております。外郭団体評価委員会規則6条2項により、会議が有効に成立しております。

本日の議題、(1)から(5)の各団体の令和2年度経営評価（財務運営の実績）については、公開で行います。

それでは、最初の議題について、事務局からご説明をお願いします。

【小山法人担当課長】 ご説明いたします。

健康局が所管いたします外郭団体でございます公益財団法人大阪市救急医療事業団の令和2年度経営評価（財務運営の実績）につきまして、大阪市外郭団体等への関与及び監理事項等に関する条例第7条第4項の規定に基づき、諮問いたします。

内容につきましては、所管所属からご説明させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【野村委員長】 それでは、所管所属からご説明をよろしくお願いいたします。

【健康局】 健康局健康推進部健康施策課担当課長代理の眞鍋です。本日はよろしくお願いいたします。

まずは、ただいま新型コロナウイルスの対応につきまして当局は大変輻輳しておりますので、本日は課長代理からの説明になりますことをおわび申し上げます。

着座にて失礼いたします。資料に沿って説明させていただきます。

公益財団法人大阪市救急医療事業団における令和2年度経営評価（財務運営の実績に関する事項）についてご説明させていただきます。

中期目標期間でございますが、令和2年9月11日から令和6年3月31日までの4年間となっております。

次に、財務運営の実績に関する評価（財務運営に関する事項）につきまして、1つ目の目標といたしまして、診療収入100万円当たりの物件費の節減としております。目標値といたしましては、令和2年度の目標は40万1,958円でしたが、同年度の実績は52万7,576円で、目標達成率76.19%でございました。昨年度におきましては、新型コロナウイルスの影響で診療控えというものがございまして、患者数がかなり減少となりました。こうした診療収入の減少が見込まれる中ではございますが、一定の固定費はかかってまいります。これらを踏まえまして、中期計画に対する進捗状況につきましては、イ「遅れあり」としております。なお、令和3年度は31万8,727円、令和元年度と令和2年度の平均といたしまして、令和4年度、令和5年度につきましては23万5,497円ということで、令和元年度レベルに戻していきたいというような目標となっております。

2つ目の指標といたしましては、診療収入100万円当たりの患者窓口未収金額（当該年度分）、未収金の縮減ということで目標を掲げております。令和2年度の目標値は897円、実績は754円ですので、目標達成率は118.97%。中期計画に対する進捗状況はア「順調」としてしております。こちらは後述いたしますが、徴収強化により努力したものでございますが、令和4年度、5年度につきましても、コロナの影響を考慮しつつではございますが、713円ということで、減らしてまいりたいと考えております。

次に、外郭団体の自己評価の項目に参ります。

当該事業年度の達成状況につきましてですが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で診療体制の確保に多大な労力を要しましたが、大阪市や大阪府医師会など関係団体のご協力を頂きながら初期急病患者の診療体制の維持・確保及び後送病院の確保を行い、市民の安心・安全な生活に寄与いたしました。物件費につきましては、患者数減少に伴い医療材料費が減少いたしました。診療収入が大幅に減少しましたため、目標を達成することができませんでした。一方、未収金については、窓口での徴収強化や督促を根気強く行ったことにより、目標を達成することができましたとしております。

また、最終目標（中期計画）達成に向けた課題及び課題解消に向けた次年度以降の取組についてでございます。物件費の節減につきましては、光熱水費、消耗品費をはじめ経費全般にわたり現状を見直し、事務書類の簡素化や各種の情報処理システムの導入等事務処理の効率化を図り、業務の委託化の拡大やジェネリック医薬品の導入を拡大するなど、一

層の固定経費の抑制に努めるとともに、職員のコスト意識を高め予算を効率的に執行してまいります。未収金の縮減につきましては、救急医療は、健康保険証や現金を持参していない受診者も多く、未収金が発生しやすい状況にあります。患者自己負担金の請求を適正に行い、未収金の発生防止に努めますとともに、督促の回数の増加など未収金対策を強化することで、一定の成果を上げてきたところでありますが、引き続き収納率の向上を図ってまいりますとしております。

次に、専門家の評価でございますが、こちらは公認会計士の先生でございます。物件費については、新型コロナウイルスの影響により診療収入が予想以上に低い金額で推移したため、物件費のうち固定費部分の負担が大きく、診療収入100万円当たりの物件費は高い水準となり、目標未達となった。未収金については、想定どおりの回収により、目標達成となったと評価していただいております。

これらを踏まえまして、市の審査でございますが、指標の達成状況はb、診療収入100万円当たりの物件費については、固定的物件費の負担が重く、目標とした水準の約76%にとどまった。一方、診療収入100万円当たりの患者窓口未収金額（当該年度分）につきましては、患者自己負担額の請求を適正に行い、未収金発生防止に努めるとともに、督促の回数の増加など未収金対策を強化することで、目標を達成した。新型コロナウイルス感染症拡大の影響が多大な中、事業団が記入した内容については妥当と判断するいたしました。

また、当該事業年度の指標及び目標に基づく評価並びに当該評価を踏まえた本市の総合的な評価でございますが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の急拡大が当該団体の事業運営に多大な影響を及ぼすこととなりました。具体的には、当該財団が運営する休日急病診療所を受診した患者数が令和元年度の約37%の水準にとどまりまして、診療収入も約35%の水準でございます。このような状況の中、当該団体として新型コロナウイルス感染症対策を行い、患者、医療従事者の安心、安全を確保しながら、適切に事業運営を行ってきたことは評価できます。令和2年度は2つの指標のうち、1つが未達成となりましたが、未達成の指標については、次年度に向けまして洗い出した課題に基づきまして、改善策を着実に実行する必要があります。新型コロナウイルス感染症の今後の見通しが不透明な中ではございますが、引き続き対象事業運営を安定的かつ継続的に行うことができる財政基盤の確保を図るよう、当該団体により一層の努力を求めたいいたしました。

以上でございます。

【野村委員長】 ありがとうございました。

それでは、委員の皆様からご意見、ご質問等ありましたらお願いします。

【佐藤委員】 委員の佐藤です。よろしくお願いいたします。

診療報酬が、患者数だと37%で、金額で35%ですか、かなり減ったということなんですけれども、当初の見込みはどれくらい見込まれていたのかというのを教えていただきたいのと、あと、物件費も、比率的には固定費が多いから増えるというのは分かるんですけれども、そもそも金額的にここは節約したいというような多分計画があったと思うんですけど、それについての達成度合いは順調だったのかどうかというのを教えていただけますでしょうか。

【健康局】 ありがとうございます。

もともとコロナが始まる前の目標なんですけれども、令和元年度につきましては、診療収入100万当たりの物件費が2%減、診療窓口未収金額は1%ということで目標を置いておりました。ところが、コロナ禍となりましたもので、目標値につきましては変えざるを得ませんでした。

あと、経費につきましてなんですけれども、主には物件費なんですけれども、医薬材料費の節減といいますか、患者減によりまして、医薬材料費というのは使わないものですから、当然減っていくものです。それに合わせてなんですけれども、体制、例えば、診療のブースを2つ空のまま、空けたままということではありませんで、日によっては診療体制を絞るようなこともございまして、深夜勤務ですから、帰宅時にタクシー券なんかも使えますもので、そういった通信運搬費の節減というのもし組みました。ドクター等を少し減らすことで経費の節減ということはしてまいりました。

説明になっているのかどうか分かりませんが。

【佐藤委員】 分かりました。それに加えて、もともと令和2年の目標自体が、過去の実績からすると物件費が40万円台で、多いですね。これは、そもそもコロナを見込んだというか、ある程度見込まれた数字と考えたらよろしいんですかね。

【健康局】 令和2年の8月の目標ということでしております。

【佐藤委員】 それよりもさらに、予想よりも患者数が少なかったということで。

【健康局】 はい。

【佐藤委員】 そのときにどれぐらい、例えば4割ぐらいなのか、50%ぐらいなのかという、そこ。コロナ、8月に立てられたときに、従来の、令和元年と比べてどれくらい見込まれていたか、お分かりにならないですか。

【健康局】 令和2年8月の実績と、あと令和元年度の状況、それを踏まえて変更しております。

【佐藤委員】 そのときに患者数が、例えば半分ぐらい、50%かなと思っていたのが実際は35%とか、その辺の、もともと立てられたとき。もし分かればで結構ですけども、想像以上に、8月って感じ取られているよりもさらに悪かったということですね。悪かったというか。

【健康局】 そうですね、例年、例えばなんですけれども、インフルエンザの時期でありますとか、そういったことは当然患者さんというのは増えるものなんですけれども、コロナによりまして、例えば手洗いを励行されるでありますとか、環境整備でありますとか、そういうことによりましてインフルエンザの患者さんも減少ということもございますし、あと、コロナも、元年度で落ち着くかと思いきや、今現在もこういったことでございますので、どれくらい減るかというのが本当に見込めないものなんです。ですので、時点で検討するしかございませんで、何%という見込みは特別どこを目標ということはしかねるんですけれども、令和2年の8月の状況時点と、あと前年度、その辺りでの検討ということで設定はされております。

【佐藤委員】 分かりました。ありがとうございます。

【野村委員長】 今の佐藤委員のご質問に関連してなんですけど、この40万1,958円という目標を立てた時点では、令和2年の8月ぐらいにということだと思いうんですけれども、この時点でこれぐらいの診療報酬が得られるだろうという見込みもあって、それに対して物件費がこれぐらいになりそうだからということで恐らくこの数字が出てきているんだと思いうんですけど、そのときに見込まれている診療報酬と実際のところとにどれぐらいの差が結局できたんだろうかといった恐らくご質問かなと思いうんですけれども。その辺り、お手元にもしなければ結構です。

【健康局】 正確な数字はないですけども、令和2年度につきましては、先ほど申しましたように、先ではなくて時点と過去を見ております。令和3年度につきましては、令和元年度の実績と、また令和2年度の間値ということで取っております。

【田中総務局長】 ちょっと分かりにくくて。今日でなくても良いので、令和2年度に41万1,958円を算定したときに事業収入が分母になっていると思いますので、そのときに、歳入のうちに診療費がいくらかを構成すると思いますので、その診療費を何人ベースの患者さんで見込んだかという、その数字と、実際どれだけ落ちたかというのが分かればとい

うご質問ですので、今日は無理と思いますので、また機会があれば、事務局を通じて教えていただければ、私どもから先生の方にまた報告させていただきます。

【佐藤委員】 分かりました。理由はよく分かりました。インフルエンザとか、当初の予定と違って少なかった。

【田中総務局長】 もし可能なら、そういう。40万を出したときに何人ぐらいが患者さんとして、しておったか。

【健康局】 患者数ということですか。

【田中総務局長】 ええ。それが現実、いくらに減ったということを教えていただければ。もし参考までは、元年度の患者数の見込みと、この3つのポイントが分かれば、参考的な数字になるのかと思いますので。

【健康局】 分かりました。具体的に、はい。

【田中総務局長】 事務局を通じて教えていただければと思いますので。先生、それでよろしいですか。

【佐藤委員】 はい。理由はよく分かりました。

【野村委員長】 ほかにはございますでしょうか。

あと、すみません、1点だけ。令和3年度については31万8,000円ぐらい見込まれているということなんですけれども、この患者数の戻り状況は、まだ第1四半期しか過ぎていない状況だと思うんですけれども、もし大体のところでもご存じでしたら、教えていただければと思いました。

【健康局】 令和3年度のこれは7月時点ということで、現時点なんですけれども、患者数につきましては156%増、これは令和2年度と比較するしかないんですけれども、診療収入につきましては令和2年度と比較して175%増ということで見ております。

【野村委員長】 4月から7月までの累計という意味ですか。

【健康局】 はい、おっしゃるとおりです。

【野村委員長】 分かりました。

ほか、皆様からご質問、ご意見はありますでしょうか。よろしいですかね。

(「はい」と呼ぶ者あり)

【野村委員長】 それでは、質疑応答については以上で終了いたします。ありがとうございました。

【野村委員長】 それでは、答申の取りまとめということになりますけれども、特に何

か意見としてつけておくべきことなどありますでしょうか。

【水上委員】 特に意見ではないんですけども、目標達成率の数値の出し方なんですけど、減れば減るほど良い指標についてですね。多分ここ、ピースおおさかもそうなんですけど、目標値を実績値で割っていると思うんですね。一般的にはその目標と実績の差を目標値で割った数字を1から引くとか、そんな形になるんじゃないかなと思うんです。

【野村委員長】 例えばこの76%という数字。

【水上委員】 数字は、恐らく目標を実績で割っている数字だと思うんですが、多分、差を、目標値を基準にして、どれくらい達成しなかったかという割合を出して。

【田中総務局長】 そうですね。全体に関わる表記の問題ですね。ほかとのバランスがあるので、1回。去年までずっとこれでいって。

【小山法人担当課長】 少なければ少ないほど良いような指標の場合の表記については確認します。

【田中総務局長】 すみません、全体に影響しますので。

【野村委員長】 救急医療団に関しては特段、意見としてはよろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

【野村委員長】 では、特に意見なしということで。

【小山法人担当課長】 はい。また答申の文言についてはまたメール等で確認させていただきます。

―― 了 ――